

コラム

# みやちゃん と ご一緒体験記

Vol.39

## 【パーフェクト・ケアとは？】

日本列島が猛暑マーク（真っ赤）に染まっているのをみるだけで汗がふきだしてくる毎日。猛暑を免れている地域には大雨や洪水警報が出され、地震や台風のみ速報が流れるのだと思っていたら、最近は竜巻や線状降水帯発生警報が流れます。事前にわかるのは嬉しいですが、こう警報が多いとどうも落ち着きません。日本中（世界中！）どこへいっても安心できない夏本番です。どうか気を付けてお過ごしください！

さて、悪徳後見人ビジネスを描いたクライムサスペンス「パーフェクト・ケア」（2020年・米）がスリリングだと高評なのでテレビで鑑賞しました。日本同様、高齢社会のアメリカ、若者よりも高齢者ばかりの地域で、身体面・メンタル面ともに問題がないのに医師や介護事業者と結託して、“問題のある人”として高齢者を施設送りにし（ほぼ監禁状態）、彼らの財産をまきあげる法定後見人ビジネスを展開する女・マーラ（ロザムンド・パイク）。

この女優はボンドガール出身で、ボンドガールになると出世しない(?)というジンクスを見事に覆す女優だあ〜と思っています。ワル街道を歩いてきただけに肝がすわっていて、屈強な男が脅してきてもびくともしない。だました相手がヤバイ集団の母親だとわかって逃げたりもしない、車ごと海に沈められても脱出し（さすが、ボンドガール!）闘うタフな女です。こんな道に進むことは絶対におススメしませんが、根性は見習うものがありますし、ともあれあっぱれな女優魂なので必見に値します。

マーラが目をつけるのは、財産はあるが家族がいない、もしくはいないも同然の孤独な老人ばかり。しっかりした家族がいれば、クレームがつくから当然ですが。

自分は認知症ではないしまだなんでも一人のできるし社会参画もしているのに、他者と面会厳禁状態の施設におくられ、スマホもとられあげられ外界との接触を絶たれる。こんな恐ろしい現実が突如、自分の身におきたらど

うします!?

そういえば、昔、在宅患者さんを多く抱えているみやちゃんが、  
「気がついたら、自分の家に自分が依頼してもいないヘルパーやケアマネージャーや家政婦さんが入り込んで  
いる日常になってしまう。しかも、勝手に合鍵をつくられて自分の都合で仕事だからといって入ってくる・・・  
こんなの嫌だよね～」と言っていたのを思い出しました。こんなことあり得ないだろうと思っていると、そうで  
もないらしいことがわかってきて愕然とした次第。

例えば本人が天涯孤独に等しい場合を考えてみます。

認知症などの病気で判断能力がなく後見人を依頼したとします。まだ認知症が進んでいない場合、自分で後見  
人手続き（色々面倒で時間がかかります!）ができますが、そうでない場合は地域の民生委員などが対応にあた  
ります。

また、本人がすでに介護サービスを受けていて、日々ケアマネやヘルパーなどと連絡をとりあっていたとしま  
す。しかし、次第に衰えて認知症などになることもあり得ます。このケースの場合、ケアマネが変化に気づき次  
の進む道を提示してくれるでしょう。

生命を繋ぐために自宅で介護サービスを受けたり施設入居を決めたり、介護ビジネス側に一任しなければなら  
ないケースは確かに存在するのです。ほぼ寝たきり状態の方は自分で自分のことができないのですから、ある意  
味、任せるしか仕方がないのかもしれない。

自分のことがある程度できる人は、ただでさえ来客予定があると身ぎれいにしておかなくてはいけないし片付  
けておかないと恥ずかしいと考えるものですから、連日、いろいろな介護事業者がやってくるのはどうでしょ  
うか? 私だったらイヤですね。疲れるし、プライバシーがなく落ち着かない。まして合鍵なんて絶対に渡したく  
ないです。

もちろん、財産（ないですが）をとられるのは絶対イヤです。

財産を持っている方はオレオレ詐欺や高額な詐欺被害にあうリスクは高く、現在ニュースをにぎわせている宗  
教団体のケースもありさほど珍しくはありません。しかし、介護ビジネスは人の生命を預かるものですから善意  
が核となっていてほしいと心から願います。なんでもかんでもビジネスに結びついていて（それはそれで便利な  
のかもしれませんが）、超高齢化社会の現在、有り余る高齢者は安心して過ごすことができません。

そういえばみやちゃんは、こうも言っていました。

「医療・介護従事者が集まって一緒に仕事してきたことだし、パートナーや子どもがいてもずっと一緒に暮ら  
す人はそう多くはない。ならば、仲間たちとシェアハウスで共同生活して、現在のように役割分担して暮らすっ  
て理想よね!」と。

もちろん、自分に何かあった時の【もしもの備え】はきちんとしておかなければなりません。  
誰と、どこで過ごし、介護が必要になった時はどうするか、どんな最期を迎えるか? 財産が少しでもあれば、  
それをどうするか?



家族がいても自分の意志を優先させたいもの、そして他者に決められるのは避けたいものです。現在はおひとり様社会。お気に入りの場所で、自分の時間を大切に、親しい人たちと楽しく過ごしたいですね。我慢して生きるほど人生は長くないし、そもそも我慢はストレスの元。他人任せではなく自分にとって必要なケアを自分で選び適切にうけ、パーフェクトな生活の実現をめざしましょう！

★「パーフェクト・ケア」

<https://eiga.com/movie/95622/>

